

1 沖之口役所跡
(現函館市臨海研究所)



松前藩が松前、江差、箱館に設置した船の入港税徴収や、上陸する人の取り締まりを行ったところ。箱館戦争時には箱館市中を警備する新撰組の拠点となった。

2 弁天岬台場跡



箱館開港と同時に箱館警備のため、文久3年(1863)に完成した不等辺六角形の台場。五稜郭と同じく武田斐三郎が設計し、箱館戦争の際は新撰組などが守備していた。強固な台場だったが、弾薬と食料が尽きて明治2年(1869)5月15日降伏した。

※写真提供/函館市中央図書館



明治29年(1896)港湾改良工事のため解体されたが、台場の石垣の一部は現在の函館漁港の護岸工事に使われた。

※写真提供/函館市中央図書館

3 函館港改良工事記念碑



明治33年(1900)9月に完成し、函館港の改良工事には取り壊された弁天岬台場の石垣が、舟入間防波堤や護岸潮堤として使用され、残っている。記念碑の備前産の御影石も土塁石垣に使われていたもの。

4 土方歳三の供養碑
(称名寺内)



昭和47年(1972)に建てられた土方歳三と新撰組4名の供養碑がある。東京都日野市の金剛寺過去帳に、称名寺に土方歳三の供養碑があると書かれているが、碑は見つからなかった。新たに供養碑を建てたもの。また称名寺の墓地台帳に残されていた野村利三郎他3名の新撰組兵士も合わせて供養した。

5 傷心惨目の碑(高龍寺内)



明治2年(1869)5月11日の新政府軍による箱館総攻撃の際、箱館病院分院として使われていた高龍寺に新政府軍が乱入し、傷病者を惨殺しに放火した。その時犠牲となった会津遊撃隊士を悼み、明治13年(1880)旧会津藩士の有志が、既に移転していた高龍寺にこの碑を建立した。

幕末の志士達が駆け抜けた箱館 ~新撰組の足跡を辿る~

所要時間 70分 距離 2.3km 消費カロリー 210kcal ※消費カロリーはおおよその目安です。



新撰組最後の戦い 箱館戦争

京都鳥羽・伏見の戦いに始まった戊辰戦争の最後の戦いとなるのが箱館戦争。敗戦が続いた榎本武揚ら旧幕府脱走軍が、新たな拠点として蝦夷地をめざし、鷲ノ木(現在の森町)に上陸した。その後、上陸してきた新政府軍は、明治2年5月11日の箱館総攻撃により市街地を占拠し、残るは五稜郭・弁天岬台場・千代ヶ岡陣屋のみとなった。土方歳三は、弁天岬台場を助けに向かう途中一本木関門付(現在の若松町)近で銃弾にあたり戦死した。(土方死亡の場所は一本木のほか複数の説がある)弁天岬台場を守備していた新撰組などは、弾薬と食料が尽き明治2年5月15日に降伏した。

18本ある坂の最西端の坂道。魚群がよく見えたことから名付けられました。

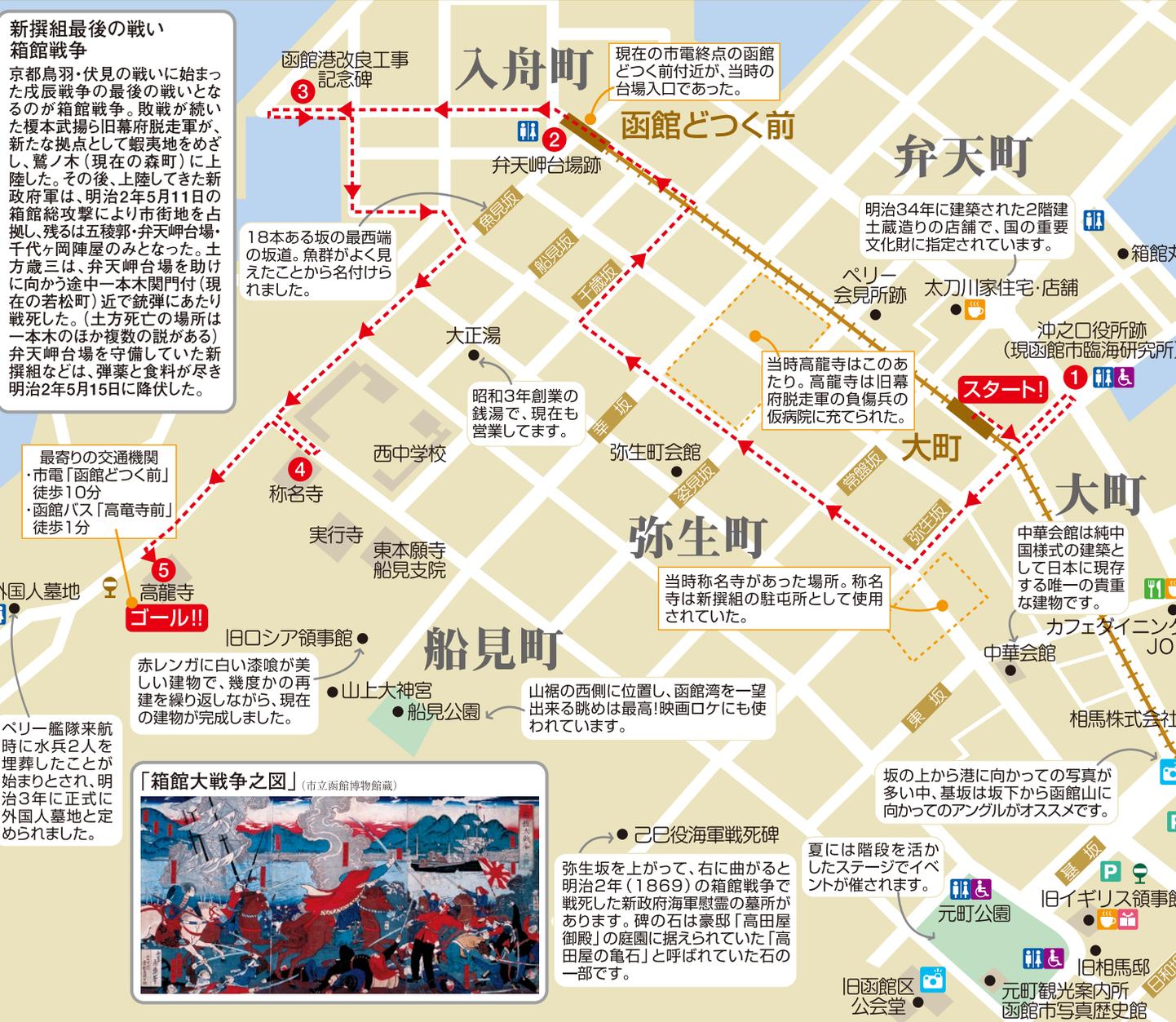
最寄りの交通機関
・市電「函館どつく前」徒歩10分
・函館バス「高龍寺前」徒歩1分

赤レンガに白い漆喰が美しい建物で、幾度かの再建を繰り返しながら、現在の建物が完成しました。

「箱館大戦争之図」 (市立函館博物館蔵)



己巳役海軍戦死碑
弥生坂を上がって、右に曲がると明治2年(1869)の箱館戦争で戦死した新政府海軍慰霊の墓所があります。碑の石は豪邸「高田屋御殿」の庭園に据えられていた「高田屋の亀石」と呼ばれていた石の一部です。



- 撮影オススメポイント!!**
- 喫茶・休憩
 - おみやげ売店
 - 食事処
 - トイレ
 - 多目的トイレ
 - 駐車場
 - 元町・ベイエリア周遊号バス停
 - バス停